母親の乳幼児養育に関する調査

－ブックスタート事業36ヶ月児を中心に－

Research of Mother's Child Rearing Attitude

－Especially 36 Months Children Concerning of Bookstart Program－

原　崎　聖　子・篠　原　しのぶ・安　永　可奈子＊
Seiko Harasaki・Shinobu Shinohara・Kanako Yasunaga

＊福岡 YMCA 国際ホテル・福祉専門学校

はじめに

われわれは2003年より小郡市のブックスタート事業の調査に継続協力している。ブックスタート運動は1992年に英国第二の都市であるバーミンガム市でブックトラスト（教育基金団体）が中心となりバーミンガム中央図書館、南バーミンガム保険局、バーミンガム大学教育学部の緊密な連携のもとに、スタートしたものである。

この運動における英国での当初の目的は、読書推進運動と近年急速に他民族国家への道をたどったことによる識字率の低下を救うことにあった。しかし現在では「Share books with your baby」というキャッチフレーズの元に「親子が絵本を通して楽しい時間を共有する」ということにその目的が移行している。

わが国においても2000年の「子どもの読書年」推進会議によって紹介され、急速に普及してきた。その背景には、近年の地域社会や家庭生活が大きく変化し、孤独な子育てに親の不安が増加している現状を見逃すことはできない。また、その結果として親の育児ノイローゼや子どもへの心身の虐待に繋がっているとすれば、その循環を断ち切る子育て支援方法を早急に考えなければならないことになる。ブックスタート事業は「母親が子どもに絵本を読み聞かせる」ことで親子のより健全な関係づくりを期待したものである。

小郡市の場合、具体的には、10ヶ月乳児健診時に図書館職員らによるブックスタート事業の趣旨説明と読み聞かせのアドバイスとともに2冊の絵本の入った「ブックスタート・パック」等をプレゼントし、2週間後に郵送によってアンケート用紙を回収するという方法をとっている。

これまでの調査結果の概略は以下のとおりである。

（2003年10ヶ月健診児の調査結果）

1．絵本を読んでもらった記憶が強い母親は

・母親になっても絵本が好きである。
・赤ちゃんは「生まれてすぐに絵本を楽しめる」と思う。
・絵本は「子どもの感性を高める」と思う。
・育児不安の度合いが低い。

2．ブックスタートを受けることで

・絵本への意識が高まった。
・絵本の読み聞かせをしている。
・赤ちゃんは「生まれてすぐに絵本を楽しめる」と思う。

3．ブックスタート後も絵本の読み聞かせ無しの場合

・比較的母親の絵本への意識が低いままである。
・父親の絵本への意識も低いままである。
・育児不安が大きい。
・育児満足が低い。

（2004年18ヶ月健診時の調査結果）

・親は10ヶ月健診時に実施されたブックスタートの説明やその趣旨を、18ヶ月時点でも記憶している。
・親は18ヶ月児に対し、子どもの要求に応じて日常的に絵本の読み聞かせをしており、絵本を通して子どもの情緒安定や母子コミュニケーションをはかっている。
・18ヶ月児の絵本の内容に対する興味が増し、絵の指差し、ページめくりなどの行動が出現している。
・親は家庭内において絵本を媒体とした親子関係を育んでおり、18ヶ月児に対しては文庫や図書館などの施設はあまり利用していない。
・親は10ヶ月児に対しては子どもの感性と絵本の関係を重視しているが、18ヶ月児には母子の絆を深める媒体として絵本を認識している。
・18ヶ月時は10ヶ月時に比べて、母親の育児に関する身体的・精神的な負担は軽減しているが、養育に対する不安は増している。
・子どもの甘えの強さは母親の否定的な養育観（ストレス項目）と相関があった。

以上の報告を行った。

今回は36ヶ月、乳児期から幼児期へと成長した３歳児に対する親の養育とブックスタートの関係を中心にⅠ．全体的特徴　Ⅱ．子どもの属性による違い　Ⅲ．子どもの月齢による変化の３方面から捉えてみることとする。また、最後にⅣ．ブックスタートの説明を受けたかどうかということによる違いを見て36ヶ月時におけるブックスタートの影響の有無について検討する。

【調査手続き】

調査対象者　小郡市３歳児健診受診者の保護者
250名
（内、10ヶ月健診時にブックスタート事業の説明を受けた保護者　179名　76.6%）

調査内容（５段階評定にて回答）

(A)　読み聞かせの頻度　５項目
(B)　読み聞かせ時の子どもの行動　17項目
(C)　読み聞かせ時の親の態度　９項目
(D)　親が感じる読み聞かせの利点　12項目
(E)　日常の家庭の様子　19項目
(F)　親の育児ストレス　11項目
(G)　日常の子どもの行動　８項目

以下表中それぞれの項目をアルファベットで示す。

調査時期

2006年１月　～　2006年８月

調査方法

３歳児健診前に郵送し健診当日持参し回収

結果及び考察

結果Ⅰ．今回の調査における全体的な特徴

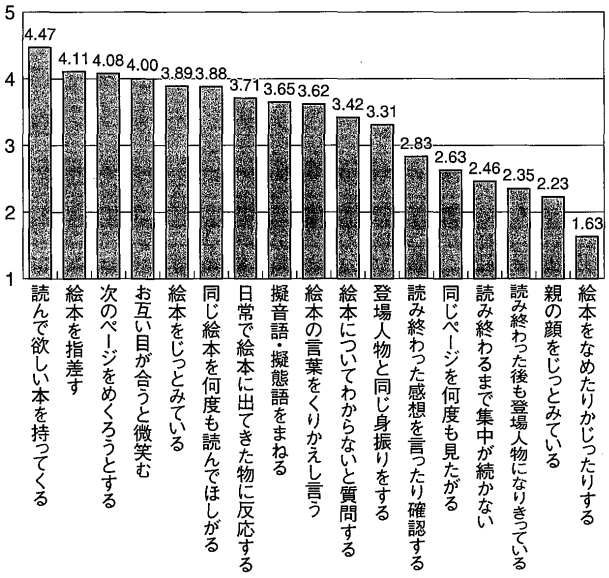

図１．読み聞かせ時の子どもの行動

図１.読み聞かせの時の子どもの行動で、平均4.0以上の特徴的な項目は「読んでほしい本を持ってくる」(4.47)、「絵本を指差す」(4.11)、「次のページをめくろうとする」(4.08)、「お互い目が合うと微笑む」となっており、身体表現を通してはっきりと意思表示をするようになっている。また絵本の内容の理解や興味が高まり、絵本を介しての親と自分の関係を楽しんでいる様子が伺える。また、平均3.0以上の項目には、ことばに関わる項目が登場し、身体的なものばかりでなくことばを使っての親子のやり取りも行われている。

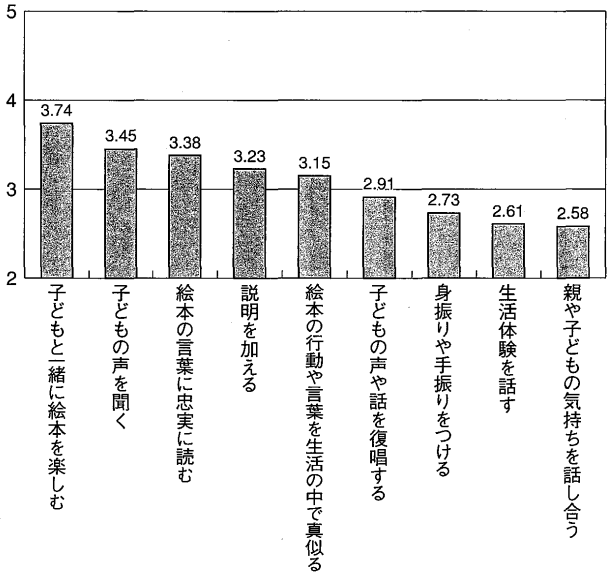

図2．読み聞かせ時の親の態度

図2.読み聞かせ時の親の態度では、「子どもと一緒に絵本を楽しむ」(3.74) の平均が一番高くなっている。子どもに対する義務感ではなく、共に楽しみながら絵本を読み進めるということは、子どもの成長の面からみても母親の子育ての面からみても意義深いものであろう。また、「子どもの声を聞く」(3.45) や「絵本の言葉に忠実に読む」(3.38) など、絵本に関わる子どもの声やことばに対しての意識が高くなり、子どもの発達に沿って自然に親が対応している様子が見える。

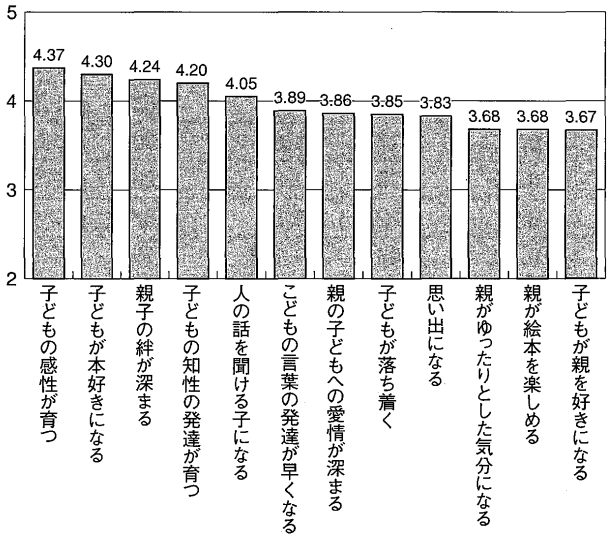

図3．親が感じる読み聞かせの利点

図3.親が感じる読み聞かせの利点では、「子どもの感性が育つ」(4.37) の平均が一番高く、次いで「子どもが本好きになる」(4.30)、「親子の絆が深まる」(4.24)、「子どもの知性の発達が育つ」(4.20)、「人の話を聞ける子になる」(4.05) となっている。ブックスタート事業を通して絵本を介した子育てを経験した親の実感としての結果だとすれば、親子の絆づくりにブックスタート事業が貢献しているということが言えるのではないだろうか。

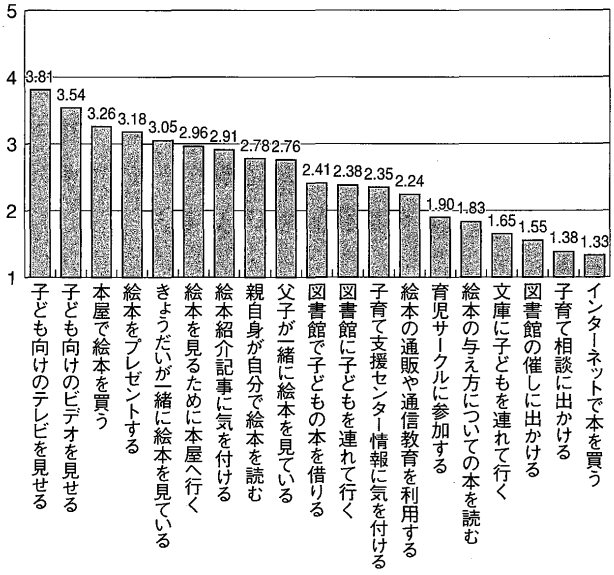

図4．日常の家庭の様子

図4.日常の家庭の様子では「子ども向けのテレビを見せる」(3.81)、「子ども向けのビデオを見せる」(3.54)、次いで「本屋で絵本を買う」(3.26)、「絵本をプレゼントする」(3.18) となっており、日常生活の中での子育てでテレビやビデオなど視聴感覚に直接

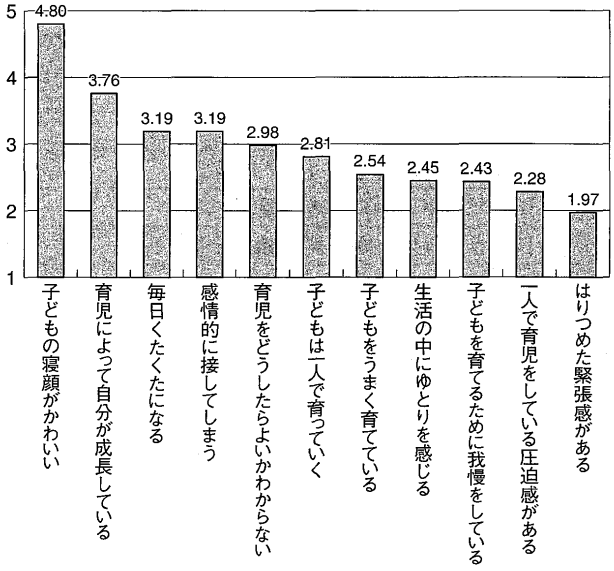

図5．親の育児ストレス

訴える文化財の使用が多いことがわかる。また、この時期においては絵本を楽しむために図書館などの施設を利用するというよりは、家庭の中で絵本に関わっている様子が伺える。

図5.親の育児ストレス（育児満足）では、「子どもの寝顔がかわいい」(4.80) が断然高く、次いで「育児によって自分が成長している」(3.76) となっている。また次に平均値が高い項目として「毎日くたくたになる」(3.19)、「感情的に接してしまう」(3.19)、「育児をどうしたらよいかわからない」(2.98) がきていることから、乳児期を経て幼児期の子育てに関する日々の大変さと葛藤状態が現れている。

図6.日常の子どもの生活では、「作った物や一人でできたことを見せに来る」(4.58)、「大人の持ち物に興味を示す」(4.33)、「遊びに夢中になっている」(4.17) など、大人の他者（主に親）からの承認を求め、大人の行動や持ち物などに興味を示している。また、一方では兄弟・ともだちや弱者に関する項目も平均3.0以上であり、大人と自分の関係性のみならず仲間関係へと発展している。

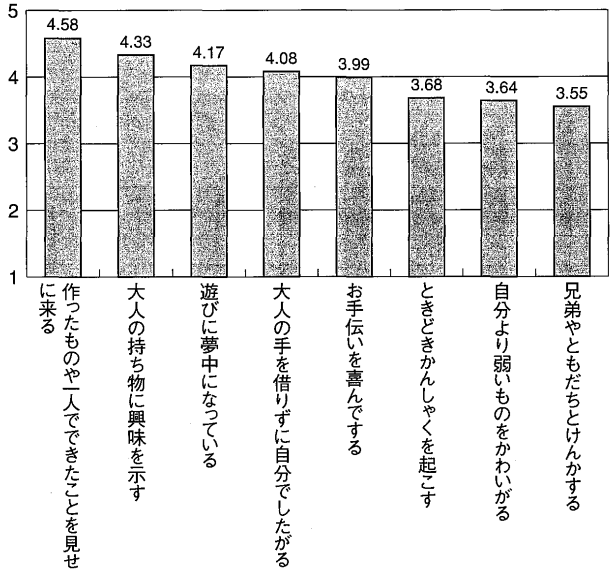

図6．日常の子どもの行動

以上、今回の調査結果を全体的に見てきたが、3歳児の様子や3歳児を持つ親の態度、親子の関係性などが絵本という媒体を通して、あるいは日常生活の中から見えてきた。また、親は子どもたちに合わせてどの

表1．出生順位により有意差がみられたもの

項目	質問内容	長子（111名）		その他（137名）		t検定	
		平均	SD	平均	SD	t値	有意差
B	1．絵本の言葉をくりかえし言う	**3.79**	1.17	3.48	1.02	2.22	p<.05
	2．お互い目が合うと微笑む	**4.14**	0.89	3.88	0.95	2.12	p<.05
	3．日常で絵本に出てきた物に反応する	**3.89**	1.03	3.56	0.93	2.62	p<.01
	4．読んで欲しい本を持ってくる	**4.65**	0.64	4.33	0.82	3.35	p<.01
	5．絵本についてわからないと質問する	**3.63**	1.25	3.24	1.16	2.53	p<.05
C	6．絵本の言葉に忠実に読む	3.27	0.92	3.47	0.89	−1.70	p<.10
	7．子どもの声や話を復唱する	**3.11**	0.90	2.75	0.85	3.20	p<.01
	8．子どもの声を聞く	**3.65**	0.82	3.28	0.80	3.52	p<.01
D	9．子どもが落ち着く	3.68	0.93	3.98	0.794	−2.75	p<.01
E	10．父子が一緒に絵本を見ている	**2.97**	1.08	2.60	0.96	2.77	p<.01
	11．きょうだいが一緒に絵本を見ている	2.26	1.40	3.65	0.98	−8.85	p<.01
	12．絵本の通販や通信教育を利用する	**2.44**	1.43	2.08	1.19	2.12	p<.05
	13．インターネットで本を買う	**1.42**	0.84	1.26	0.59	1.70	p<.10
	14．絵本を見るために本屋へ行く	**3.15**	1.16	2.80	1.28	2.18	p<.01
F	15．子どもの寝顔がかわいい	**4.88**	0.33	4.74	0.51	2.37	p<.05
	16．子どもは一人で育っていく	**2.95**	0.93	2.69	0.89	2.15	p<.05
	17．はりつめた緊張感がある	1.75	0.82	2.14	0.90	−3.39	p<.01
G	18．大人の持ち物に興味を示す	**4.53**	0.69	4.16	0.83	3.68	p<.01
	19．兄弟やともだちとけんかする	2.98	1.24	4.00	0.83	−7.52	p<.01
	20．作ったものや一人でできたことを見せに来る	**4.68**	0.64	4.51	0.72	1.83	p<.10

ような対応をしているものであろうか。
今回は子どもの属性として、出生順位及び性別に着目して検討を進めた。

結果Ⅱ．子どもの属性による比較

1．出生順位による比較（長子とそれ以外）

表1に子どもが長子（最初に生まれた子ども）であるか否かによる結果で有意差の見られた項目を提示している。

1）読み聞かせ時の子どもの行動

読み聞かせにについて対象児が長子であるか否かによる違いを見たところ、読み聞かせ時の子どもの行動で有意差が見られた項目は「読んでほしい絵本を持ってくる」（t=3.35，df=246，p<.01）、「絵本に出てきたものに日常的に反応する」（t=2.62，df=246，p<.01）「絵本の言葉を繰り返し言う」（t=2.22，df=246，p<.05）「絵本の内容について質問する」（t=2.53，df=246，p<.05）などいずれも長子の得点が高く絵本に関わる子どもの行動が積極的に表されていた。

2）読み聞かせ時の親の態度

対象児が長子（最初に生まれた子ども）か否かということによる親の絵本の読み聞かせ態度の違いを見てみると「子どもの声を聞く」（t=3.52，df=246，p<.01）「子どもの声や話を復唱する」（t=3.20，df=246，p<.01）の項目においていずれも長子の得点が高くなっており長子が発する声に対して注目している親の様子が伺える。

3）親が感じる読み聞かせの利点

対象児が長子であるか否かによって絵本の読み聞かせにどのような利点があるかということでは有意差はほとんど見られなかった。唯一「子どもが落ち着く」に関しては長子の得点が低く（t=−2.75，df=246，p<.01）、親が長子に対しては落ち着かせる手段として絵本を利用することが少ないのではないかと考えられる。

4）日常の家庭の様子

対象児が長子であるか否かによって絵本に関わる家庭での日常生活にどのような相違点があるのかを見たところ「父と子が一緒に絵本を見ている」（t=2.77，df=246，p<.01）、「絵本を見るために本屋へ行く」（t=2.18，df=246，p<.01）、「絵本の通販や通信教育を利用する」（t=2.12，df=246，p<.05）などの項目に関して長子の方が得点が高く、長子に対して親が積極的に絵本を利用し日常の中に取り入れようとする姿勢が見られる。

5）親の育児ストレス

対象児が長子か否かによる親の育児ストレス及び育児満足について違いをみたところ「子どもの寝顔がかわいいと思う」（t=2.37，df=246，p<.05）、「子どもは一人で育っていく」（t=2.15，df=246，p<.05）の育児満足項目では長子の得点が、また「はりつめた緊張感がある」というストレス項目では長子以外の得点が高くなっていた（t=−3.39，df=246，p<.01）。長子という最初の子どもに対する親の愛情の深さと養育に対する喜びを感じさせる結果となっている。

6）日常の子どもの行動

子ども自身の日常の行動が同じ3歳児でも出生順位によってことなるか否かをみたところ「大人の持ち物に興味を示す」（t=3.68，df=246，p<.01）、「作ったものや一人でできたことを見せに来る」（t=1.83，df=246，p<.10）の項目で長子の得点が高くなっており、長子と親の密接な関係性が見られた。

以上、同じ3歳児でもその対象となる子どもが長子であるか否かということによって、絵本の読み聞かせを中心とした親の態度や子どもの様子、養育の満足やストレス、日常の親子関係や子どもの行動に差が見られるという結果が示された。一般的に長子に対する子育ては最初の子どもということで、親の子育てに対する不安が大きくストレスを招くものだと考えられている。また、子どものことばや行動の発達に関しても長子よりも中間子あるいは末子の方が兄弟姉妹の影響を受けることにより早く、その分、親の子ども養育への不満も軽減されると考えられる。今回の結果においては、長子つまり最初の子どもに対する親の注目や愛情深さ、それに対する子どもの親への信頼関係という親密な親子関係を示すものとなっている。しかもその関係は親のストレスへ繋がるものとはなっていない。さらに絵本の読み聞かせや絵本を見るあるいは買うなどの行動を長子の親は比較的積極的に取り入れていこう

としている姿勢が見られる。ブックスタートの視点からこのことを考えると、10ヶ月時に受けたブックスタートの説明内容が、子どもが長子である場合に特に受け入れられたということが考えられるのではないだろうか。ブックスタートの説明を受けたことで本来の趣旨である、より豊かな親子関係の形成に繋がっていったも可能性も考えられる。

2．性別による比較

表2に子どもが男児であるか女児であるかということで有意差の見られた項目を提示している。

1）読み聞かせ時の子どもの行動

読み聞かせについて対象児が男児であるか女児であるかによる違いを見たところ、読み聞かせ時の子どもの行動で有意差が見られた項目は「読み終わるまで集中が続かない」（t=2.17, df=240, p<.05）のみで男児の平均点が高かった。絵本の読み聞かせをしている時の子どもの様子としては3歳時点での男女差はあまりみられなかった。

2）読み聞かせ時の親の態度

対象児が男児であるか女児であるかによる親の絵本の読み聞かせ態度の違いを見てみると「生活体験を話す」（t=−1.85, df=240, p<.10）「身振りや手振りをつける」（t=−1.73, df=240, p<.10）「親や子どもの気持ちを話し合う」(t=−2.22, df=240, p<.05)の3項目で、傾向あるいは有意差がみられいずれも女児の得点が高くなっていた。絵本の読み聞かせをしながら女児に対して、親はより多くのことば掛けをしている様子が伺われる。

3）親が感じる読み聞かせの利点

親が感じる読み聞かせの利点については男女に違いは認められなかった。

4）日常の家庭の様子

対象児が男児であるか女児であるかによって絵本に関わる家庭での日常生活にどのような相違点があるのかを見たところ「父と子が一緒に絵本を見ている」（t=−1.73, df=240, p<.10）の1項目にのみ傾向が見られ女児の得点が高く、男児に比べて女児に対して父親が絵本の読み聞かせ時間を長くとる傾向が見られた。

5）親の育児ストレス

対象児が男児であるか女児であるかによる親の育児ストレス及び育児満足について違いをみたところ「子どもをうまく育てている」（t=−2.51, df=240, p<.05)、「子どもは一人で育っていく」（t=−2.20, df=240, p<.05)、「生活の中にゆとりを感じる」（t=−1.93, df=240, p<.10）の3項目で有意差あるいは傾向が見られ、いずれの項目においても女児の得点が高かった。これらの3項目は育児ストレスではなく、育児満足項目と考えられることから3歳児において親は女児の対しての方が養育への自信と満足感を得られていると考えられる。しかし、3項の平均値はいずれも3.0を下回っており、男児も女児も育児に対し

表2．性別による比較

項目	質問内容	男児（136名）		女児（106名）		t検定	
		平均	SD	平均	SD	t値	有意差
B	1．読み終わるまで集中が続かない	**2.60**	1.09	2.31	0.89	2.17	p<.05
C	2．生活体験を話す	2.51	0.89	**2.73**	0.94	−1.85	p<.10
	3．身振りや手振りをつける	2.63	0.97	**2.86**	1.12	−1.73	p<.10
	4．親や子どもの気持ちを話し合う	2.46	0.85	**2.72**	0.97	−2.22	p<.05
E	5．父子が一緒に絵本を見ている	2.68	1.02	**2.92**	1.04	−1.73	p<.10
F	6．子どもをうまく育てている	2.43	0.81	**2.70**	0.80	−2.51	p<.05
	7．子どもは一人で育っていく	2.72	0.92	**2.98**	0.89	−2.20	p<.05
	8．生活の中にゆとりを感じる	2.35	0.88	**2.58**	0.88	−1.93	p<.10
G	9．お手伝いを喜んでする	3.83	0.98	**4.20**	0.80	−3.05	p<.01
	10．大人の持ち物に興味を示す	4.21	0.85	**4.48**	0.70	−2.59	p<.01
	11．遊びに夢中になっている	**4.28**	0.72	4.08	0.77	1.99	p<.05
	12．作ったものや一人でできたことを見せに来る	4.50	0.78	**4.71**	0.54	−2.30	p<.05

ての満足感は高いとは言えない。

6）日常の子どもの生活

男児であるか女児であるかによって子ども自身の日常の行動が異なるか否かをみたところ「お手伝いを喜んでする」(t=−3.05, df=240, p<.01)、「大人の持ち物に興味を示す」(t=−2.59, df=240, p<.01)、「作ったものやひとりでできたことを見せにくる」(t=−2.30, df=240, p<.05) の3項目では女児の得点が高く、「遊びに夢中になっている」(t=1.99, df=240, p<.05) では男児の得点が高くなっていた。3歳児では男女の行動や興味の違いが現れ、女児の方が親との強い関係性を保ちながら親による承認を強く求めている様子が見られる。

以上、3歳児になると男児と女児では親の子どもへの対処の仕方に違いがでてくるという結果がみられた。具体的には女児に対してことば掛けや寄り添い時間などが長くなり、女児も親（大人）への関心が増大することからより多くの時間を親と過ごすことを好んでいる様子が見られる。またそのような相互作用は親の子ども養育への満足へとつながっている。この時期、男児は女児に比べて親との相互関係よりも自分自身の世界に興味が向いており親を始めとする大人の承認を求めるには至っていないと考えられる。

結果Ⅲ．子どもの月齢（発達）による比較

10ヶ月健診時にブックスタート事業の説明を受けて、子どもが18ヶ月から36ヶ月に成長する過程で子ども自身や親の態度はどのように変化しているのかを18ヶ月時の調査結果（2004年）および今回の36ヶ月時の平均点を中心に見てみた。結果を図7.～図10.に示す。

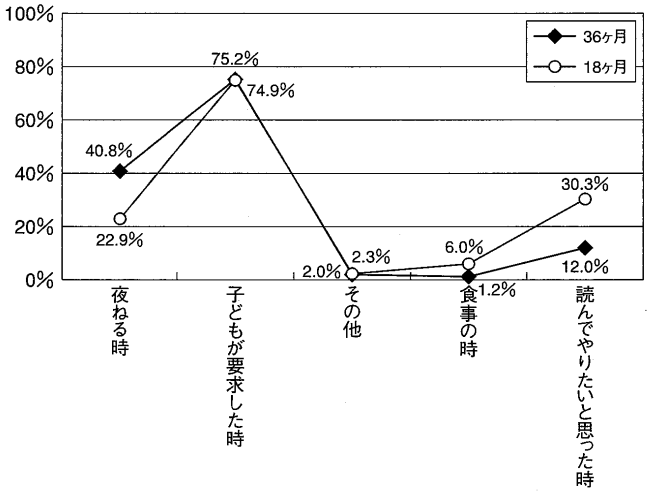

図7．読み聞かせをする時

図7.どのような時に読み聞かせをするかということについて「夜ねる時」「子どもが要求した時」「食事の時」「読んでやりたいと思った時」「その他」のそれぞれの項目について回答を求めた結果、「親が読んでやりたいと思った時」については18ヶ月が30.3%、36ヶ月が12.0%と下がっているのに対して「夜ねる時」は18ヶ月が22.9%、36ヶ月が40.8%と増加していた。どちらの月例も子どもの要求に応じて絵本を読み聞かせる割合が最も高いものの、3歳時に対しては就寝時の安心感をもたらす手段として親が絵本を利用する割合が増えている。

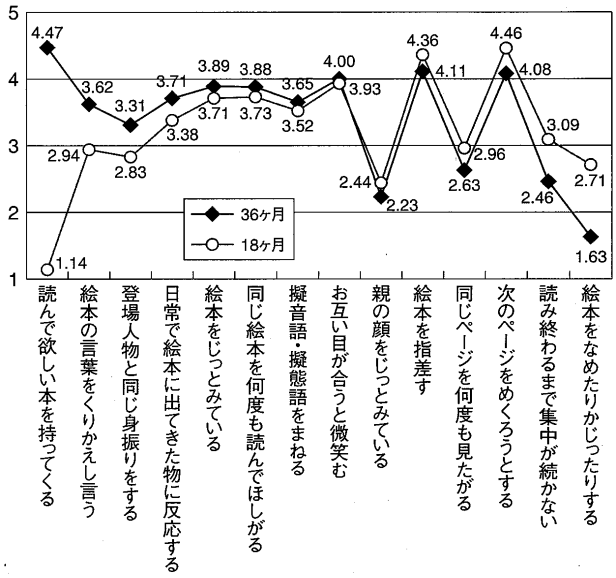

図8．読み聞かせ時の子どもの行動（月齢差）

図8.子どもが読み聞かせを受けている時の行動は月齢によりかなり差が見られる。差が大きな項目の中で18ヶ月児が高い項目は「絵本をなめたりかじったりする」「読み終わるまで集中が続かない」「次のページをめくろうとする」「同じページをなんども見たがる」などがあげられる。また36ヶ月時が高い項目としては「読んでほしい本を持ってくる」「絵本の言葉をくりかえし言う」「登場人物と同じ身振りをする」「日常で絵本に出てきた物に反応する」などとなっており、3歳児では絵本のことばや内容を理解して自分なりの創造的な世界を展開している様子が伺われる。

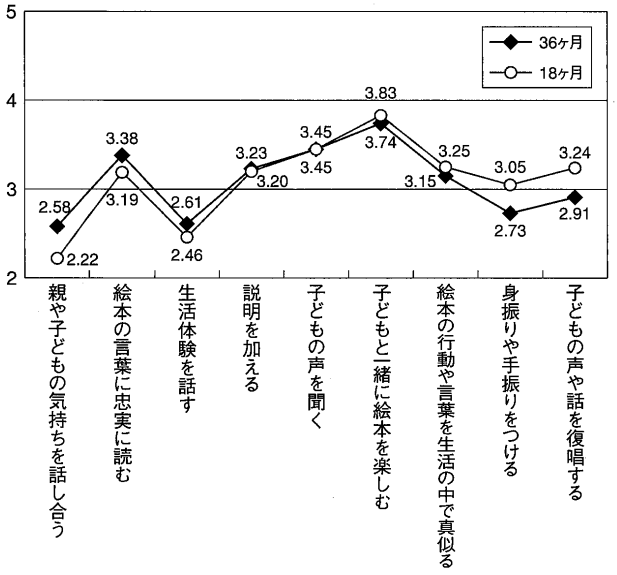

図９．読み聞かせ時の親の態度（月齢差）

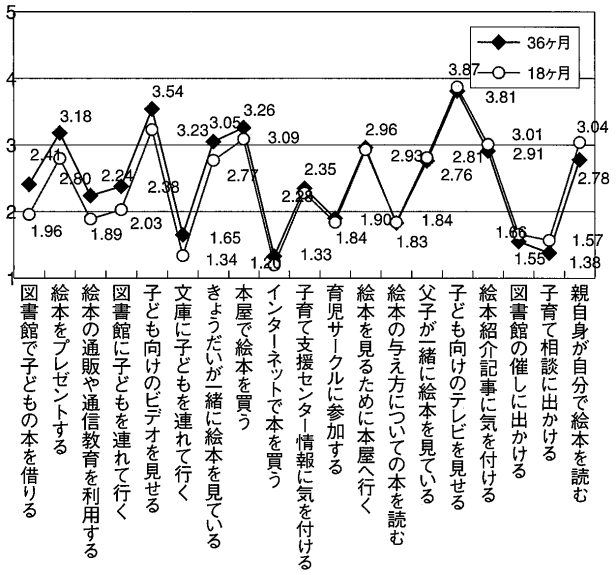

図10．日常の家庭の様子（月齢差）

図９.読み聞かせ時の親の態度中、月齢により変化している項目で18ヶ月時が高いものは「子どもの声や話を復唱する」「身振りや手振りをつける」であり、36ヶ月時に高い項目は「親や子どもの気持ちを話し合う」「絵本のことばに忠実に読む」であった。18ヶ月時点では子どもとのコミュニケーションをとる時に、ことばだけでなく自然と身振り手振りが付けられていたものが、子どもがことばを獲得していく中で親はことばを忠実に伝えながら、ことばを媒体として気持ちを通わせるようになっている。

図10.日常の家庭の様子中、月齢により変化した項目で18ヶ月時が高いものは「親自身が自分で絵本を楽しむ」「子育て相談に出かける」であり、36ヶ月が高い項目は「図書館で本を借りる」「絵本をプレゼントする」「絵本の通販や通信教育を利用する」「図書館に子どもを連れて行く」などとなっている。絵本に関わる生活の中に含まれる目的が親の子育てに対する安定をサポートするというものから、次第に子ども自身の喜びと楽しみを実現させるものへと変化していることがわかる。

以上、子どもが月齢を重ねるにつれて、絵本に関わる事柄を中心に子ども自身があるいは親が、また親子の関係と日常がどのように変化して来たかということをみてみた。親からの働きかけが多かった乳児期から子どもからの要求や主張が明確に表れる幼児期へと子

表3. ブックスタートの説明有無による比較

項目	質問内容	受けた（179名）		受けていない(56名)		t検定	
		平均	SD	平均	SD	t値	有意差
B	1．絵本をじっとみている	**3.95**	0.99	3.68	1.03	1.74	p<.10
	2．同じ絵本を何度も読んでほしがる	**3.94**	0.96	3.65	1.12	1.89	p<.10
	3．読んで欲しい本を持ってくる	**4.55**	0.67	4.19	0.97	3.17	p<.01
C	4．絵本の行動や言葉を生活の中で真似る	**3.22**	0.94	2.96	1.08	1.69	p<.10
E	5．父子が一緒に絵本を見ている	**2.85**	1.01	2.50	1.04	2.24	p<.05
	6．図書館で子どもの本を借りる	**2.52**	1.44	2.09	1.36	1.96	p<.05
	7．絵本の与え方についての本を読む	**1.90**	1.03	1.63	1.01	1.73	p<.10
G	8．大人の手を借りずに自分でしたがる	**4.15**	0.91	3.89	1.07	1.72	p<.10

どもの成長発達につれて無意識のうちに親の行動や対応が変わり親子の関係性やコミュニケーションのあり方などが変化していた。

結果Ⅲ．ブックスタートの説明による比較

表3.にブックスタートの説明を受けたか否かよる結果で有意差の見られた項目を提示している。

1）読み聞かせの時の子どもの行動

これまでに親がブックスタートの説明を受けたかどうかによる違いを見たところ、読み聞かせ時の子どもの行動で有意差あるいは傾向が見られた項目は「読んでほしい本をもって来る」(t=3.17, df=233, p<.01)、「同じ絵本を何度も読んでほしがる」(t=1.89, df=233, p<.10)、「絵本をじっと見ている」(t=1.74, df=233, p<.10)の3項目で、いずれもブックスタートの説明を受けた親の子どもの得点が高かった。親がブックスタートの説明を受けていた場合、子どもが絵本に興味を示し、親に対してさまざまな要求を出している。子どもにとって絵本がより身近な文化財として捉えられているのではないだろうか。

2）読み聞かせ時の親の態度

ブックスタートの説明を受けたかどうかによる親の絵本の読み聞かせ態度の違いは「絵本の行動や言葉を生活の中で真似る」(t=1.69, df=233, p<.10)の1項目でのみ受けた方が高いという傾向がみられた。子どもが3歳児になった時点においては、親が絵本の読み聞かせをする時の態度に大きな違いはないという結果が見られた。しかしながら、生活の中で絵本の行動や言葉をまねるには、親と子のそれぞれが絵本の中にどのようなことばや動きが登場していたかということを共有記憶し、それを表現することに共通の喜びや楽しさを感じているということが考えられる。このことは絵本を媒体とする親子の関係が絵本という現物がないところにおいても展開されているということで意義深いものではないだろうか。

3）親が感じる読み聞かせの利点

親が感じる読み聞かせの利点についてはブックスタートの説明をうけたかどうかによる違いは認められなかった。

4）日常の家庭の様子

ブックスタートの説明を受けたかどうかということによって絵本に関わる家庭での日常生活にどのような相違点があるのかを見たところ「父と子が一緒に絵本を見ている」(t=2.24, df=233, p<.05)、「図書館で子どもの本を借りる」(t=1.96, df=233, p<.05)、「絵本の与え方についての本を読む」(t=1.73, df=233, p<.10)の3項目に有意差あるいは傾向が見られ、いずれもブックスタートの説明を受けた者の得点が高かった。ブックスタートの説明を受けることによって絵本を通しての親子関係づくりや絵本が子どもたちにどのような影響を及ぼしているかなどの理解が深まった結果であろうと思われる。また、たとえ父親がブックスタートの説明を直接にうけていないとしても、母親から話を聞いたり母親と子どもの様子を見ながら、家庭の中で自然に父親も子どもと一緒に絵本を見るという時間が長くなるということは子どもの発達においても母親の子育て支援の意味からも大変意味のあることではないだろうか。

5）親の育児ストレス

ブックスタートの説明をうけたかどうかによる親の育児ストレス及び育児満足について違いに有意差はみられなかった。

6）日常の子どもの行動

親がブックスタートの説明を受けたかどうかにより子ども自身の日常の行動が異なるか否かをみたところ「大人の手を借りずに自分でしたがる」(t=1.72, df=233, p<.10)、の1項目でのみ説明を受けた方の得点が高いという傾向が見られた。3歳児の特徴でもある自立の欲求が表現されており、また親もあまり細かく手を出さないで子どもの自主性を尊重している結果であろう。

以上、親がブックスタートの説明を受けたか否かにより絵本の読み聞かせを受ける時の子どもの様子や日常の行動、親が読み聞かせをする時の態度や家庭での絵本に関わる日常生活に顕著ではないが違いが見られることがわかった。ブックスタートの説明を受けることは絵本の意味に対する、母親の意識を高めてその結果、子どもの興味を高めそれは子どもの絵本に対するおとなへの積極的な要求につながり、父親をも絵本の

世界へと取り込むという図式が考えられるのではないだろうか。

36ヶ月時においてもブックスタート事業の効果は残っていると考えられる。

まとめ

36ヶ月児健診時の回答

全体的特徴

・　読み聞かせ時の子どもの行動に子ども自身の要求行動が見られるようになった。
・　読み聞かせの親の態度は子どもと一緒に絵本を楽しみながら子どもの声やことばへの意識が高められていた。
・　親の育児に関しては満足感の方が高いもののさまざまな形でストレスもあり葛藤状況が見られる。
・　日常の子どもの行動では大人の行動や持ち物に興味をもち大人の承認を求めていた。

子どもの属性による違い

・　子どもが長子（最初の子ども）である場合、ことばや日常生活で親の子どもへの働きかけが多く、育児満足も高い。
・　子どもが女児の場合、親のことばによる働きかけが増し、育児満足も高くなる。また、女児の行動は男児に比べて大人に対してより積極的な興味を示し要求などの意思表示も明確である。

子どもの月齢による変化

・　読み聞かせを中心とした親子のコミュニケーションの方法について、18ヶ月では母親が子どもの指差し行動やページめくり行動に合わせながら身振り手振りを交えて行っていたものが、36ヶ月では子どもの動作やことばによる要求に答えるという形に代わっている。

ブックスタートの説明を受けたかどうかということによる違い

・　10ヶ月健診時にブックスタートの説明を受けていたた場合、今回の36ヶ月の時点においても絵本に関わる子どもの行動や親の読み聞かせ態度と日常行動の中に積極性が見られた。したがってブックスタートの影響は継続しているということがいえた。

「参考文献・資料」

・「第１回ブックスタート全国大会資料」2002年２月７会場；千代田区公会堂　主催；ブックスタート支援センター
・「絵本でつなぐ親子のブックスタート　読書環境意識調査報告書」2001年３月　恵庭こども読書推進ネットワーク開発実行委員会
・「恵庭市ブックスタート事業概要説明」平成14年10月　恵庭市立図書館
・「報告書　杉並区ブックスタートパイロット研究－赤ちゃんと絵本の出会いに関する縦断研究－　平成14－平成16年度NPOブックスタート委託助成研究」研究代表者　秋田喜代美
・「母親の乳幼児養育に関する調査－ブックスタート事業との関わりから－」原崎聖子　篠原しのぶ　福岡女学院大学紀要人間関係学部第６号　2005年
・「母親の乳幼児養育に関する調査－ブックスタート事業18ヶ月児を中心に－」原崎聖子　篠原しのぶ　福岡女学院大学紀要人間関係学部第７号　2006年
・エレン・ハンドラー・スピッツ著、安達まみ訳(2001)「絵本のなかへ」青土社